

補足資料

目次

2－14	資源生産性の推移	P 1
2－15	プラスチック製容器包装の分別収集実施前後の処理原価比較	P 2

2-14 資源生産性の推移

「京都市循環型社会推進基本計画～京のごみ戦略 21～」にて物質循環フローに関する目標として掲げられた資源生産性（市内総生産÷天然資源等投入量）について平成 17 年度の値を算出した。

	平成 12 年度	平成 17 年度	平成 22 年度 (中間目標)	平成 27 年度 (目標)
市内総生産（百万円）	5,998,843	6,410,679	-	-
天然資源等投入量（千 t）	14,879	15,353	-	-
資源生産性（万円/t）	40.3	41.8	53	60

出典：平成 15 年 京都市循環型社会推進基本計画～京のごみ戦略 21～

（参考）京都市循環型社会推進基本計画～京のごみ戦略 21～

物質循環フローに関する目標

資源生産性は、産業や市民の生活において、いかに少ない天然資源等投入量で“ものやサービス”を生み出すことができるかを示す指標であり、この数値が高いほど資源の消費や環境負荷が抑制され、結果としてごみの発生そのものが抑制されることになります。

資源生産性は、西陣織や清水焼等に代表されるような付加価値の高い製品を生み出しているまちである京都の特性をよく表している指標と言えます。

資源生産性の値は、平成 12 年度から平成 17 年度にかけての緩やかに増加している。

今後、天然資源の消費や環境負荷を軽減する取組を行っている事業者に対して支援、表彰等を行い、資源生産性を高めていくことが必要である。

2-15 プラスチック製容器包装の分別収集実施前後の処理原価比較

○家庭ごみ，プラスチック製容器包装の処理原価（円/t）

		18年度	19年度
家庭ごみ	収集運搬	30,444	28,497
	焼却	20,214	22,039
	焼却灰埋立	6,372	6,519
	合計	57,030	57,055
缶・びん・ペットボトル	収集運搬	127,386	161,245
	再資源化	57,226	75,830
	合計	184,612	237,075
プラスチック製容器包装	収集運搬	326,254	176,392
	再資源化	83,838	72,125
	合計	410,092	248,517

○プラスチック製容器包装の分別収集実施世帯数

平成18年度 全市の約1割世帯（約72,000世帯）

平成19年度 9月まで全市の約1割世帯，10月から全市

平成19年度のプラスチック製容器包装の処理原価は，平成18年度に比べて，約39%も下がっている。これは平成19年度全市拡大により収集運搬の効率が高くなり，収集運搬経費が下がったためである。ただし，平成19年度のプラスチック製容器包装の分別収集全市拡大実施は10月から半年間の実績である。